

太宰府の文化財

457

吉嗣家の書画

太宰府天満宮の西側に位置するホテル・カルテア太宰府は、かつて「古香書屋」と呼ばれ、絵師・文人として江戸末期から昭和にかけて3代にわたり活躍した吉嗣家の人々が住んでいました。家屋や蔵に遺されていた資料の一部は太宰府市文化ふれあい館で保管されるとともに、調査・研究が進められています。吉嗣家に伝わる印章については、ちょうど3年前の「太宰府の文化財」421号（令和2年6月号）で紹介しました。

今回は近年の調査の書や絵画の作品類について紹介します。吉嗣家は掛軸・屏風・卷子・扁額・画帖・扇子・色紙などで制作された多様な作品が伝わり、その数は千点を超え、落款や箱書きに記される人数は500人以上にも及びます。吉嗣家3代の作品は約150点、その他の作者による作品は約970点あり、資料の制作年や内容を見ると、明治11（1878）年の吉嗣拜山の清国渡航に際し寄せられたもの、同19年の吉嗣梅仙の古稀祝賀会に関連したもの、昭和7年（1932）の吉嗣鼓山母の吉嗣つる80歳祝賀会に関連したものが大きなまとまりとして残っています。これらの作品群には九州をはじめ、遠く関東や東北の人物、さらに清国や朝鮮といった海外の文人の名も見られ、その交友関係の広さを伺い知ることができます。

明治以降、国内での鉄道網整備、日

本と清国（上海）の定期汽船運輸など、交通網が整備され、人々の移動が活発になっていましたが、それでも今と違い移動や情報伝達には制約がありました。SNSもない時代、どうやってこんなにくのひと知り合っていたのでしょうか、驚かされるばかりです。

△お知らせ▽

太宰府の絵師展3「吉嗣家交友録」近代文人の書と絵画」を開催します

会期 6月10日（土）～7月17日（月）

最終日以外月曜休館 ※観覧無料

会場 太宰府市文化ふれあい館

多目的展示室

問い合わせ 文化財課（☎内線477）

文化財課

木村 純也



吉嗣梅仙他《梅仙寿像賛》



汪予田《山水図》 孫士希《漢詩》



萱島秀山《啼鳥図扇面》



中垣模山《松樹双鶴図》



太宰府市民
遺産第6号

「太宰府における時の記念日の行事」のお知らせ

文化財課（☎内線470）

かつて時の記念日に、水城小学校の児童たちが早朝決められた時刻に時計を持たずに集合する「時の記念日の行事」が行われていました。学校行事としては行われなくなりましたが、平成元年から卒業生によって復活しています。

吟詠や舞踊の披露のほか、当時歌われていた「時の記念日の歌」や「水城村の地勢」などを合唱します。どなたでも参加できます。

日時 6月10日（土）午前6時10分開始

場所 都府楼跡（太宰府政庁跡）

当日、主催者の市民遺産育成団体「辰山会」が行事運営協力の募金（一口500円）を集めますので協力をお願いします。



編集／太宰府市総務部経営企画課：〒818-0198

☎092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号

✉ keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします！

